

# 大般若経が運ばれた

## 古道・近江坂

### 県境を越える古道・近江坂

今津町酒波と福井県若狭町能登野を結ぶ古道・近江坂は、県境を越える長大な峠道で、一部は美しいブナ林が続く中央分水嶺高島トレイルのコースに重なります。また途中の標高950.1mの大御影山への登山ルートでもあり、家族旅行村ピラデスト今津近くの平池脇が登山口となっています。



近江坂

一方で、この近江坂は、今から700年近く前に、若狭国倉見荘から近江国河上荘へ600巻におよぶ大般若波羅蜜多経(大般若経)という経典を運んだ道として、地元では古くから知られた道でもありました。

### 唐から伝来「大般若経」

近江坂の近江側の起点に位置するのは、奈良時代に行基によって開創されたと伝わる酒波寺で、寺に隣接する日置神社に残る古文書によると、観応2年(1351年)11月、若狭国倉見荘の人々が、酒波寺のある河上荘の後山(入会地)への立ち入りを認められたお礼として、大般若経600巻を「酒波岩剣大菩薩(日置神社)に贈ったことが記されています。このとき、経典が運ばれてきた道が近江坂で、おそらくは100巻ずつ6つの経箱に収められた大般若経が、倉見荘の人々の手で、大切に峠を越えて運ばれてきたものと思われま

また、大般若経の元の所在地である若狭国倉見荘の地にも、この件についての記録が残されていて、そこには若州能登野・倉見両村から大般若経を河上荘に寄進したことが記されています。

大般若経とは、唐の玄奘が漢訳した字数が500万字にのぼるといわれる膨大な量の経典で、日本の伝来時期は正確には分かっていませんが、奈良時代以降、各地の寺院で盛んに大般若経の読誦や書写が行なわれたといわれています。大般若経は、600巻という膨大な巻数の経典であったため、全巻を一度に揃えることが難しく、寄進の際には、古いものの一部を補完したり、書写しなおしたりして使われることが一般的でした。この倉見荘から寄進された大般若経についても、先の古文書には「古筆なり」という説明が書かれており、寄進時よりもさらに前の時代に書かれた貴重な経典であったことが想像されます。

### 物流の道・交流の道

近江坂を通って運ばれたものは経典だけではありませんでした。倉見荘に残る記録には、河上荘の後山である若狭国境の三十三間山が、古くから能登郷の社(若狭町成願寺に所在する閻見神社)への下山とされていたため、毎年4月の川上祭の10日前に、山手米一石二斗三升九合が倉見荘から近江坂を通って、河上荘へ運ばれていたことが記されています。近江坂を通じた河上荘と倉見荘の古くからの交流がうかがわれます。

圖文化財課 ☎(32) 4467

### 編集 雑感

現在、Instagramで高島から見える魅力的な朝日を紹介するキャンペーン、「#タカシマノアサヒ」(詳しくは市のホームページ)を開催しています。先日、朝日の撮影に行きましたが、新旭地域は曇りでした。残念に思って帰ってくると、高島地域からは綺麗な朝日が見えたとの連絡がありました。高島市は広く、同じ日でも場所によって見え方が違うんですね。1月末のキャンペーン終了まで、早起きして朝日の撮影を頑張ります！(H)



広報たかしま

平成29年

12

月号 No.215

発行 高島市

編集 政策部企画広報課

滋賀県高島市新旭町北畑ののちの番地

0740(25) 8000(代)

http://www.city.takashima.lg.jp

info@city.takashima.lg.jp